

平成23年 6月20日

高等教育局長 殿

国立大学法人九州大学
学長 有川節夫

九州大学大学院薬学府創薬科学専攻（博士後期課程）及び臨床薬学専攻（博士課程）設置報告書

このたび、九州大学大学院薬学府創薬科学専攻（博士後期課程）及び臨床薬学専攻（博士課程）を設置することについて、別紙書類にて報告いたします。

教育課程等の概要(事前伺い)

(薬学府創薬科学専攻博士後期課程) (新設分)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
高度融合研究実験	高度融合研究実験	1~3通	24					○	5	5				兼3	
	小計(1科目)	-	24					-	5	5	0	0	0	兼3	-
高度融合研究演習	高度融合研究演習Ⅰ	1通		4				○	5	5				兼3	
	高度融合研究演習Ⅱ	2通		4				○	5	5				兼3	
	小計(2科目)	-		8				-	5	5	0	0	0	兼3	-
先端研究指導実習	先端研究指導実習	1通		2				○	5	5				兼3	
	小計(1科目)	-		2				-	5	5	0	0	0	兼3	-
先端研究技術実習	先端インターンシップ実習	2通		2				○	5	5				兼3	
	先端科学論文発表	3通		2				○	5	5				兼3	
	小計(2科目)	-		4				-	5	5	0	0	0	兼3	-
創薬・臨床コラボ実習	創薬・臨床コラボ実習	1~3通		4				○	5	5				兼3	
	小計(1科目)	-		4				-	5	5	0	0	0	兼3	-
合計(7科目)			-	24	18			-	5	5	0	0	0	兼3	-
学位又は称号	博士(創薬科学)		学位又は学科の分野			薬学関係									
設置の趣旨・必要性															
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>「創薬科学」における更なる知の統合と、より高度な教育と研究を実施するために、「創薬科学専攻(博士後期課程:3年制)」を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士後期課程では、修士課程の4コース(医薬化学、物理薬学、生物薬学及び医療薬学)で身につけた研究能力に加えて、融合研究能力を身につけるための教育を行う。 「創薬科学」が新たな研究分野の開拓と幅広い社会ニーズに応えるには、専門性の特化だけでは不十分であるため、修士課程の4コースを統合し、高度融合研究及び創薬科学・臨床薬学集約型研究を実践できる人材を育成する必要がある。 <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士後期課程では、修士課程の4コースを統合し、これらを基盤とした幅広い知識を生かし、薬学固有の高度な専門的研究能力を備えた人材を育成する。 高い研究能力を養成するため、「高度融合研究実験」では複数指導教員の指導のもと独自のテーマについて研究を推進することにより、科学的思考力に基づく研究遂行能力と問題解決能力を育成する。 高度融合研究の実践能力及び討論力を養成するため、「高度融合研究演習」、「先端研究指導実習」、「先端インターンシップ実習」及び「先端科学論文発表」により、高度融合研究実施のプロセスを指導し、効率の良い研究の進め方を体得させる。 創薬科学と臨床薬学の独自性を十分活かした上で両者のコラボレーションにより、「創薬科学」の視点から新たな研究領域を開拓できる人材を「創薬・臨床コラボ実習」などの教育プログラムを通じて育成する。 															
修了要件及び履修方法								授業期間等							
博士後期課程に3年以上在学し、九州大学大学院通則及び九州大学薬学府規則の定めるところにより、「高度融合研究実験」の必修科目24単位、「高度融合研究演習」、「先端研究指導実習」、「先端研究技術実習」及び「創薬・臨床コラボ実習」の選択科目から6単位以上、計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認められた者については、博士課程に3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者については、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要(事前伺い)

(薬学府創薬科学専攻博士後期課程) (既設分)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
															九州大学大学院薬学府は、博士課程5年間のうち、その前期課程である修士課程(2年間)において博士課程の修了に必要な単位数(30単位)を修得させている。このため、後期課程は研究指導の期間にあてており、授業科目を設けていない。
学位又は称号	博士(薬学)		学位又は学科の分野					薬学関係							

設置計画の概要

事項	記入欄											
設置手続きの種類	事前伺い											
計画の区分	研究科以外の教育研究上の基本となる組織(学府)の専攻の設置											
フリガナ設置者	コリツダイガクホウジン キョウシュウダイガク 国立大学法人 九州大学											
フリガナ大学の名称	キョウシュウダイガクダイガクイン 九州大学大学院 (Graduate School, Kyushu University)											
新設学部等において養成する人材像	①豊かな人間性を備えた薬剤師の育成 ②高度化・専門化する医療に対応できる人材の育成 ③チーム医療に参画できる薬剤師の育成 ④医療薬学領域において、薬学研究を遂行できる研究者・教育者の育成 ⑤臨床薬学と創薬科学のコラボレーションにより新研究領域を開拓できる能力を備えた人材の育成											
既設学部等において養成する人材像	①高度な専門的研究能力を備えた人材の育成 ②医療薬学領域において、薬学研究を遂行できる研究者・教育者の育成 ③将来の指導者たる薬剤師の育成											
新設学部等において取得可能な資格												
既設学部等において取得可能な資格												
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上
	薬学府	臨床薬学専攻	4	5	-	20	博士(臨床薬学)	薬学関係	平成24年4月	医療薬学専攻	20	10
										計	20	10
既設学部等の概要(現在の状況)	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上
	薬学府	医療薬学専攻(廃止)	3	14	-	42	博士(薬学)	薬学関係	平成12年4月	臨床薬学専攻	20	10
										計	20	10
【備考欄】												

教育課程等の概要 (事前伺い)

(薬学府臨床薬学専攻博士課程) (新設分)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
先端医療薬学研究実験	先端医療薬学研究実験	1～4通	32					○	10	10				兼5	
	小計 (1科目)	—	32	0	0			—	10	10	0	0	0	兼5	—
先端医療薬学研究演習	先端医療薬学研究演習Ⅰ	1通		4				○	10	10				兼5	
	先端医療薬学研究演習Ⅱ	2通		4				○	10	10				兼5	
	先端医療薬学研究演習Ⅲ	3通		4				○	10	10				兼5	
	小計 (3科目)	—	0	12	0			—	10	10	0	0	0	兼5	—
臨床研究・試験演習	臨床研究演習	1前		2				○	2	2					オムニバス
	臨床試験演習	1後		1				○	1						
	小計 (2科目)	—	0	3	0			—	3	2	0	0	0		—
腫瘍関連講義	腫瘍治療学Ⅰ	1前		2				○	1					兼2	オムニバス
	腫瘍治療学Ⅱ	1後		2				○	1					兼3	オムニバス
腫瘍関連研究・実習	腫瘍治療学実習	1～3通		4				○						兼2	オムニバス
創薬・臨床コロボ実習	創薬・臨床コロボ実習	1～4通		4				○	10	10				兼5	
合計 (10科目)		—	32	27	0			—	10	10	0	0	0	兼6	—
学位又は称号	博士 (臨床薬学)		学位又は学科の分野			薬学関係					設置の趣旨・必要性				
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>「臨床薬学」における高度薬剤師育成・臨床薬学研究推進を目的として、「臨床薬学専攻 (博士課程：4年制)」を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程では、学士課程で培った基礎薬学を基盤として、より高度な医療薬学の基盤的及び臨床的研究・教育を通じて、柔軟な思考力を養い、臨床現場から見出される諸問題に関わる実践的な研究能力を培う。 ・高度化・専門化する医療に対応していくためには、医療における幅広い分野間のコミュニケーション力に優れ、薬剤師・臨床薬学研究者として指導的役割を果たし得る優れた素養を身に付けた人材を育成する必要がある。 <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程では、優れた臨床研究者、指導者、専門薬剤師を育成するための教育内容とプログラムを編成する。 ・高い研究能力を養成するため、「先端医療薬学研究実験」では複数指導教員の指導のもと独自のテーマについて研究を推進することにより、科学的思考力に基づく研究遂行能力と問題解決能力を育成する。 ・高い論文作成能力を養成するため、「先端医療薬学研究演習」により臨床薬学に関する研究計画立案から研究論文作成、研究発表までのプロセスを指導し、効率の良い研究の進め方を体得させる。 ・先端の臨床研究の現場における学びの場を提供するため、「臨床研究・試験演習」、「腫瘍関連講義」、「腫瘍関連研究・実習」の研究・実習・演習プログラムにより、将来独立した研究者として必要な種々の能力を涵養する。 ・臨床薬学と創薬科学の独自性を十分活かした上で、両者のコラボレーションにより「臨床薬学」の視点から新たな研究領域を開拓できる人材を「創薬・臨床コロボ実習」などの教育プログラムを通じて育成する。 															
修了要件及び履修方法								授業期間等							
博士課程に4年以上在学し、九州大学大学院通則及び九州大学大学院薬学府規則の定めるところにより、「先端医療薬学研究実験」の必修科目32単位、「先端医療薬学研究演習」、「臨床研究・試験演習」、「腫瘍関連講義」、「腫瘍関連研究・実習」及び「創薬・臨床コロボ実習」の選択科目から8単位以上、計40単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が優れた研究業績を上げたと認めた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要(事前伺い)

(薬学府医療薬科学専攻博士後期課程) (既設分)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
															九州大学大学院薬学府は、博士課程5年間のうち、その前期課程である修士課程(2年間)において博士課程の修了に必要な単位数(30単位)を修得させている。このため、後期課程は研究指導の期間にあてており、授業科目を設けていない。
学位又は称号	博士(薬学)		学位又は学科の分野					薬学関係							